

## 第1回首都圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会 議事要旨

日 時：平成27年2月25日（水） 10:00～12:00  
場 所：KKRホテル 10階 「瑞宝」  
出席者：出席者名簿のとおり  
議 事：（1）首都圏広域地方計画のスケジュール（案）について  
（2）首都圏広域地方計画骨子（原案（案））について

### 主な発言内容

#### 委員

- ・内容をもう少し絞り込んでも良いのではないかと。記述しなければいけないことがみんな並び当たり前の計画になりそうな気がする。絞り込んでアクセントをつけ、それからプライオリティをつける。網羅されているものは当然やらなければいけないことではあるが、これ全部一気にというのも無理なこと。平たく書いてあるので説得性が乏しくインパクトがない。

#### 委員

- ・言葉の問題として「介護保険施設」と「介護施設」の違いを指摘したい。介護保険施設の増設になると、介護保険料にはね返ってくるため負担が増え、どこの市町村も反対する。
- ・「未病」を医療関係者は「予防」と言っており、整合性を図るべき。言葉の問題は丁寧をお願いしたい。

#### 委員

- ・考え方の軸について、次の観点から厳しい危機感を示して欲しい。
- ・1つ目は、一層の成長を目指すと言うが、現実には極端な貧困化が見られる。データを率直に見つめるべき。日本の位置づけも1人あたりGDPがアジアで4位に落ち、相対的に貧困化している。
- ・2つ目は異次元の高齢化。首都圏の高齢化こそ大変という問題意識を明確にしっかり持ち、都市と農村の交流によって高齢者が参画できるようにすべき。
- ・インフラと次世代のICTについてもっと鮮明な問題意識を出すべき。圏央道は首都圏を間違いなく変える。圏央道がどう変えるのかアピールするというのが首都圏広域地方計画の命。そこにリニアや空港がどう絡むか。
- ・計画の読者に希望を与えられるキラーコンテンツ、キラープロジェクトが欲しい。例えば教育、人づくりをこの地域でどうするんだという話をしっかりやっていくようなこと。また、食とエネルギーのプロジェクト。産業構造の重心を下げるためには、やはり食の自給率を上げるという計画がないと不安定。

#### 委員

- ・問題点に絆創膏を貼っているようで、幸福感が見えない。現実を見据えると、もっと厳しいことになるのではないかと。
- ・世界都市機能の強化について、文化感が見えない。首都圏の特徴であり、優位性を持つ

ているものは文化が集中していることだ。文化の中には文化を創造する教育機関も入ってくると思う。エンターテインメント施設やアミューズメント施設、教育機関の合体、新しい教育の機関をつくるということも含めて、これまで私たちが追求してきた豊かさ、経済を振興しようということを基軸に据えながら、次世代に対してもう少し希望を与えるような目次立てを工夫する必要がある。

#### 委員

- ・具体的に各場所で施策として展開していくときに、どのようにやるべきか。そのやり方に関するポリシーやビジョン、それが別途共通する枠組みとして必要なのではないか。
- ・そもそも何のため必要なのか、何を達成したいのか、だからどうするのかを各現場で考えてものが動くようなメカニズムにしたい。
- ・この施策によって、日本、関東がどういう姿を目指していくのかという目標像も必要。
- ・美しいということは、最大の国防になるのではないか。世界が認めるあんな美しいところを破壊してはいけないとか、あんな美しいところでテロを起こすようなことは絶対やってはいけないと世界が認めるような美しい地域、列島、海を造っていくために、今後の施策を行うというようなシナリオが1つ考えられないかと思う。

#### 委員

- ・「国土のグランドデザイン2050」の中では、厳しいことも書いてあって、畳まなければいけないところもあるのではないかという雰囲気が出ていた。ここでは、あれもこれもやった方が良くあり、出来ないことは出来ないというのが隠されている感じがする。
- ・運命の10年と書いてあり、未曾有の危機感を持っているようにあるが、深刻さが余り伝わってこない。みんながバラ色になるというのは現実問題として不可能。優先順位をつけ、止めるということもこれから必要と思う。
- ・首都圏の中でもメリハリをつけたほうが良いところがある気がする。地方では畳むところがどうしても出てくるから、そのときに、コンパクトシティに移ってもらう人もいるという前提で、その中で生まれる痛みを最小化するにはどうしたらいいのか。そのために首都圏で何ができるのか。地方のために首都圏は何ができるかということを中心に出したほうが良いのではないか。そうしないとリアリティがない。
- ・課題を踏まえた10の基本戦略の記載レベルが揃っていない。
- ・ICTの話が殆ど無い。進んだICTをどう使うのかということは重要で、活用の可能性はたくさんある。
- ・この先10年を考えるのであれば、水素自動車の話よりも電気自動車のシェア、それぞれの地方の交通を考えるときに、シェアするような自動車やパーソナルモビリティ、自動運転対応道路などの話のほうが社会の構造に与えるインパクトは強いのではないか。
- ・異次元の高齢化について、高齢者の方は集まらないと効率的にケアできないのでコンパクトシティということになるが、「団子と串」の「団子」のところをどうするのか考えないと具体的に行かない。もう少し明解にメリハリと優先順位をつけるべき。

#### 委員

- ・全体的に非常に個別的なものが羅列されていて、筋がわかりにくい。
- ・広域地方計画の10年を考えるには4~50年先までを考えた長期的な視点が必要である。人口にしろ経済にしろ、建前としての目標を掲げなくてはいけないのも理解できる。ただし、それが達成できなかったときの腹案を持っておく必要がある。
- ・人口にあわせて畳むという観点から、維持管理を停止するインフラと維持し続けるインフラの選別をやる必要が出てくる。今すぐ停止することはできないので、30年後にはこ

の地域はインフラの維持管理は緩やかに停止します、といったことを決める必要がある。そのためには、非常に長期的な視点でやっていかなければいけない。

- ・現在は鉄道、物流、通信などかなりのインフラを民間が担っているが、長期的に個々の地域の居住を維持するか維持しきれないかの判断は官の役割ではないか。
- ・「首都直下地震対策」については、規模と場所がどこかということをきめ細かく想定して検討するべきではないか。
- ・リニアの実現の効果としては、地方から本社が東京に移ってきて一極集中がより進むと考えるのが普通。世界の中の東京とするならば、その勢いを削ぐのは国力増進策と矛盾する。一極集中で失われるものと決して失ってはいけないものというのを真面目に考えるべき。
- ・二地域居住する人が増えた場合の防災、減災に対する負の側面はないか。物理的に遠いということはやはり非常に大変なのではないか。
- ・水循環基本法の経緯を拝見していると、海外からの投資受入れに対する心理的な抵抗は強い。しかし、海外からの投資を受け入れるというのは経済的にはプラスである。日本の経済を活性化させるために矛盾のない施策を考えて欲しい。

#### 委員

- ・歴史を振り返ると、日本がうまく行った時期は危機感を国民が共有できたとき。危機感を真摯に受け止めた上で、幸福感があるようなものが理想である。データを押さえて、それを空間的に意識して作成することが基本。安心しているようなエリアがデータで見ると、きつい状況になっていることが見えたりする。
- ・国土の不明化が懸念される。地籍調査は東京と大阪が圧倒的にまずく、本腰をいれてやらないといけない。
- ・国富について、世界では貧困層が都会にいるのが普通であり、東京もそういう面がある。
- ・福島を全国が支えるべき。首都圏と仙台が支援することは国民的に納得してもらえるのではないか。
- ・離島・海洋について、国土の保全、特定離島みたいな枠組みは明瞭に扱う必要がある。
- ・空港について、首都圏空港への国際交通の集中度を比較可能な先進国と見てみるとずば抜けて高く、供給の充実、キャパシティの充実と合わせて、需要の分散も意識してほしい。

#### 委員

- ・広域計画を作るメリットを住民の人たちに納得してもらえるような迫力あるシナリオがいる。
- ・幾つかのキーになるテーマを明確にしてみると、輪郭のはっきりした広域地方計画になるのではないか。

#### 委員

- ・総花的に全部入れるのはとても無理である。医療では医師不足が問題である。ただ、この問題は医師をどう養成するのかという話になり、そこにハマるとビジョンでも何でもない。解決、予防についてもう少し具体的な例を入れるべき。

#### 委員

- ・広域地方計画を考えると、一番外側にあるものは外国。それが物流、人の流れだったりする。この20年間で船の動きが全然違ってきているが、そのときに、基幹航路を押さえるのか、セカンダリーに力を入れるのか、どういう政策で行くのか。日本海側をどうするかというのは大事なところなので、今後ともご検討いただきたい。

#### 委員

- ・覚悟しないとその先に真の幸福はあり得ない。また、それにより危機感みたいなものが創出されるのではないか。老若男女すべての人が豊かさを実感できる成長発展戦略を構築するのはあり得ない。

#### 委員

- ・資料4-2Ⅰの「ビルトイン」は、「有事に役立ち平時にうれしい」と書く方がわかりやすいし、カタカナなら「デュアルユース」の方が一般的ではないか。
- ・資料4-2Ⅱデフレ脱却を確実にする取組とオリンピック、これは結論から戦略目標を決めるような無理やりの印象がある。
- ・スーパーメガリージョンについて、物理的に近距離ということと、移動速度が増したということで、同時間で着くという話は本当に同じ効果なのか検証しないで言っているのか気になる。
- ・全体的には、グランドデザイン2050で首都圏は日本全体の中でどういう役割なのか。ほかとの関係がどうか、明解に関係論を最初に出すべき。他の地域に対して役に立ちたいというメッセージを最初に出した方が良い。

#### 委員

- ・経済発展を進め、快適で安全、持続可能な国土をつくる、それら全部を支える社会インフラを整備する、そういう国土計画としてのコンセプトは悪くない。これからはモノづくりではなく、モノを介在したサービスを売ると考えるべき。日本語でサービスというと無料奉仕のようなイメージがあるので別の言葉を考える必要があるかもしれない。

#### 委員

- ・何のためにどのように実施するのかを考えると、既存の物とこれから作ろうとしている物の重層性でどれだけ価値を高められるか。既存の物の再利用、既存の物の温存、リノベーションも含めてそれに関しての柱というものも少し考えるべき。

以 上